

ジャカルタ州知事選の行方とその意味合い

～決選投票は接戦の様相、その行方は次期大統領選にも影響～

発表日：2017年3月29日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

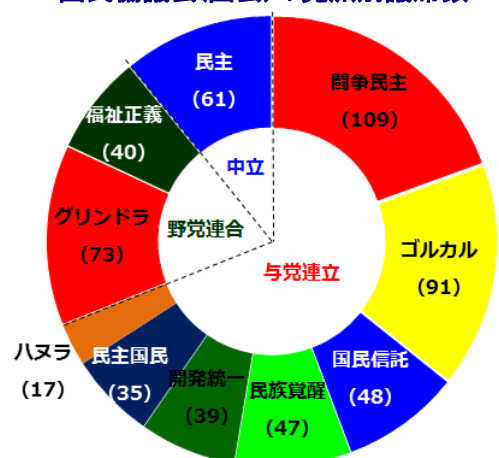
(要旨)

- 先月、インドネシアの首都ジャカルタで行われた州知事選では現職のアホック氏が最多得票を得るも過半数を得られず、次点のアニス氏との決選投票が来月行われる。アホック氏はジョコウィ現大統領の知事時代の片腕として活躍し、その後に華人系・キリスト教徒で同国初の知事に就任した。しかし、イスラム教徒が多数を占める同国では強硬派を中心にアホック氏に対する執拗な攻撃が行われる状況が続いた。
 - 昨秋にアホック氏の発言が「宗教冒とく罪」に問われて以降は、同氏へのデモが一段と拡大した。一時は第1回投票で落選したアグス氏の支持率が上昇したが、経験不足を理由に自滅した。その後は「第3の候補」であるアニス氏が反ユドヨノ票や宗教票を手堅く集める作戦を展開した。アニス氏の後ろ盾にはジョコウィ大統領の政敵であるプラボウォ氏が居るなど、州知事選は宛ら「代理戦争」の様相をみせている。
 - 第1回投票での両者の票差は僅差であり、アグス氏に投票した層の取り込みが鍵を握る。ただし、アホック氏を支援する闘争民主党とアグス氏を支援する民主党は関係が悪く連立の可能性は低い。今後、アホック氏は舌禍癖を抑えた上で、アグス氏の支持層である低所得者にも配慮する必要がある。アホック氏の勝利は次期大統領選でのジョコウィ氏再選への弾みをつけるとみられ、インドネシアの今後を左右する。
- インドネシアの首都ジャカルタで先月15日に行われた州知事選（第1回投票）では、現職のバスキ・チャハヤ・プルナマ氏（通称**アホック**）が42.99%と最高得票を得たものの、過半数を得られず、来月19日に行われる決選投票に持ち越された。アホック氏以外の候補者のなかでは、前教育・文化相の**アニス**・バスウェダン氏（39.95%）が2位に着け、両者で決選投票が行われる。なお、選挙前に一時善戦する場面もみられたユドヨノ前大統領の長男で元軍人の**アグス**・ハリムルティ・ユドヨノ氏（17.05%）は3位に留まり落選した。アホック氏は、2012年に行われた前回のジャカルタ州知事選でジョコ・ウィドド氏（通称ジョコウィ/現大統領）とタッグを組んで副知事に当選し、その施政を下支えした。その後、2014年の大統領選へのジョコウィ氏の出馬に伴う州知事退任を受けてアホック氏は州知事に昇格し、施政を引き継ぐ形で行財政改革や汚職撲滅などによる行政サービスの充実、インフラ投資の拡充などに取り組んできた。アホック氏は選挙戦を通じ、ジョコウィ氏並びに同氏の下でジャカルタ特別州は周辺自治体と連携してインフラ拡充に取り組む実績を挙げてきた行政手腕を訴え、国政最大与党である闘争民主党などの支援を取り付けた。ただし、アホック氏は中国系住民であり（通称のアホックは客家語）、宗教もプロテスタントのキリスト教徒であるなど、国民の9割弱をイスラム教徒が占めるインドネシアでは少数派である。アホック氏が州知事に就任する際には、同氏が同国で華人且つキリスト教徒として初の知事となるため、イスラム強硬派が「異教徒」であることを理由に集団抗議を行う動きもみられた。その後も、イスラム強硬派はアホック氏に対してことあるごとに人種及び宗教を背景とした執拗な攻撃を行ってきた。
 - アホック氏に対する攻撃が強まった背景には、対話型の政治手法をモットーとするジョコウィ氏に対し、アホック氏は強硬なスタンスも辞さず、過激な言動が度々物議を醸したことも影響したとされる。昨年秋にはアホック氏がイスラム教の教典であるコーランを侮辱する発言を行ったとしてイスラム強硬派団体などが「宗教冒

とく罪」で告訴しており、現在裁判所において審理が行われている。アホック氏に対するデモ活動は当初こそイスラム強硬派を中心に少数に留まったものの、その後は参加者の裾野が大きく広がり、昨年末には数十万にも及んだ。これに伴い、それまで選挙戦を優位に戦ってきたアホック氏の支持率は急落し、直後の世論調査では代わりにアグス氏がトップに立つ。アグス氏の父であるユドヨノ前大統領は上述した一連のデモを裏で支援したとされ、アグス氏を「側面支援」した可能性も指摘されている。アグス氏は 38 歳と候補者のなかで一回り近く若く（アホック氏は 50 歳、アニス氏は 47 歳）、父同様に国軍出身者ながら、海外留学経験も多いなど新鮮さを前面に押し出した。また、選挙公約として低所得者世帯への現金給付といった「バラ撒き政策」を打ち出し、ユドヨノ前大統領の影響力を背景とする選挙戦を展開したものの、終盤に行われたテレビ討論で経験不足が露呈して支持率は急失速した。その後はアホック氏への支持も次第に回復するなか、「第3の候補」とみられてきたアニス氏への支持が高まることとなる。

- アニス氏はアラブ系のイスラム教徒で、祖父は後に「独立の英雄」の一人に数えられる血筋を有するなか、同氏自身は学者として人生を歩み、同国最年少の大学学長となるなど若い頃から政治アナリストとして知られた。その後は、学者・教育者としての経験から教育機会の拡大を推進する運動を展開し、世界経済フォーラムが選ぶ「ヤング・グローバル・リーダー」の一人となるなど世界的にも有名になる。こうしたことから、2014 年の大統領選では有力な候補者の一人とされたこともある。その後ジョコウィ政権 1 期目に教育・文化相に就任するなど、元々はジョコウィ大統領と気脈を通じた仲とみられる。しかしながら、今回の選挙戦においてアニス氏は、ジョコウィ大統領の「政敵」の一人であるプラボウォ氏（2014 年の大統領選でジョコウィ氏に敗れる）率いるグリンドラ党の支援を受けるなど、「代理戦争」の様相を呈している。選挙戦でアニス氏は、教育・文化相の経験から貧困層を対象とする教育の充実を訴えたほか、国民のなかに依然ユドヨノ前大統領に対する批判が根強いことから、ユドヨノ一家に対する批判票を取り込む作戦を展開した。さらに、アニス氏は学者出身ゆえに国民の間からは「リベラル」とみられてきたものの、アホック氏がイスラム教徒の不興を買うなかで「宗教票（イスラム教徒票）」を取り込むべく、穏健派から急進派まで幅広い支持を集める運動を展開したことも、アホック氏を急迫する原動力になったとみられる。
- 第1回投票では、アホック氏が最多得票を得たものの、2位のアニス氏との差は3pt 程度と僅差の勝利に留まっており、両陣営にとってはアグス氏に投票した層の取り込みが重要なカギを握る。上述したように今回の州知事選の背後には支援政党間を巡る動きが影響している上、最終的には2019年に予定される次期大統領選を見据えた「代理戦争」の要素も垣間見える。よって、アホック氏を支援する闘争民主党及びアニス氏を支援するグリンドラ党と、アグス氏を支援したユドヨノ前大統領率いる民主党との関係が大きく影響を与える。なお、中央政界では闘争民主党を中心に与党連立が組まれる一方、グリンドラ党を中心に野党連合が形成されるなか、民主党は中立を保つ戦略を採っている。ただし、闘争民主党の党首であるメガワティ元大統領はユドヨノ前大統領と関係が悪く、2014 年の大統領選においてもジョコウィ氏の対抗馬であるプラボウォ氏を支援したことを勘案すれば、アホック陣営がアグス陣営と手を組むことは難しい。よって、今後の選挙

国民協議会(国会)の党派別議席数



(出所) 各種資料などより第一生命経済研究所作成

戦を通じてアホック陣営はアグス氏の支持層である低所得者対策やイスラム教徒からの支持を如何に集められるかが重要であり、アホック氏の弱点とされる「舌禍癖」、特にイスラム教に関連した発言を抑制する必要がある。アホック氏が州知事選に勝利すれば、ジャカルタ州ではこれまで続けてきた構造改革路線の加速が見込まれ、2019 年の大統領選に向けてはジョコウィ氏の再選に弾みがつくと期待される。しかしながら、その道のりは決して平坦なものではない。さらに、足下ではアホック氏にさらなる懸念要因が立ち込めている。ユドヨノ前政権下で実施された国民背番号制度（N I K）に基づく電子住民登録証（e-K T P）を巡る疑惑が噴出、主要閣僚や有力議員の嫌疑も指摘されており、当時検討委員会の委員であったアホック氏に飛び火する可能性も出ている。アホック陣営では選挙資金を巡る疑惑など「清廉」を売りにする前任のジョコウィ氏とは異なる「顔」がみられたことも、選挙戦終盤で厳しい戦いを強いられた一因になったとする見方もある。ジャカルタ州知事選は今後のインドネシアの行方を占う重要な選挙と言える。

以 上